


簡単操作が子どもたちのやる気を促進する『バーコード』

与えられる学習から、自ら求める学習へ。この主体性が子どもたちの意欲を喚起し、学ぶ楽しさを育みます。



発展

標準

定着

自分でプリントを取り出す楽しみが、「学んで楽しい」を育みます。
プリントのバーコードを活用することで、先生方が配布されたプリントを起点に、さらに子どもたちも自分の習熟度に応じたプリントを、自分自身で取り出すことが可能です。

言葉と動きが「そうだったんだ!」を引き出す『マルチメ解説』

文字だけではなかなか理解しにくい内容も、音声と動画による「マルチメ解説」が子どもたちの理解を後押しします。プリントに関連する内容なので、子どもたちの個別学習用にも、授業中の提示教材にもご利用いただけます。



■個別学習で活用



■授業中の提示教材として活用

重さ 300g の入れものに、りんごを 450g 入れると全体の重さはどれかになるでしょう。

$$\begin{array}{r} 300 \\ + 450 \\ \hline 750 \end{array}$$

誠 13画



もう、この子どもたちの中では
学びの連続は始まっています。

学校だけではない「学習クラブ」の活躍フィールド

朝学習で

前日の授業で学習した内容のプリントを配布し、演習を進めます。自己採点させた後は、先生がチェックします。後日、児童の多くが間違えた問題と同形式の問題を用意し、朝学習の課題や宿題として配布しています。

習熟度別授業で

習熟度別授業の後半に、児童がその単元の既習問題を、学習クラブから取り出して取り組んでいます。「たくさんの類題を解いて自信がついた」と児童は話しています。

放課後学習で

授業の中だけでは難しい補足的な内容や、発展的な内容のプリントを、児童自身が取り出して演習します。プリントに一人一人の名前が入るので、「自分のプリントだ」という意識が生まれ、しっかり最後まで取り組んでいます。

院内学級で

学習プリントを準備する上では、子どもたちが学習を投げ出さないように易しい問題を加えるなど、以前は本当に「夜なべの仕事」でした。学習クラブを活用することで、その負担が大幅に軽減されています。その分、学校の先生との連携により多くの時間を割けるようになっています。

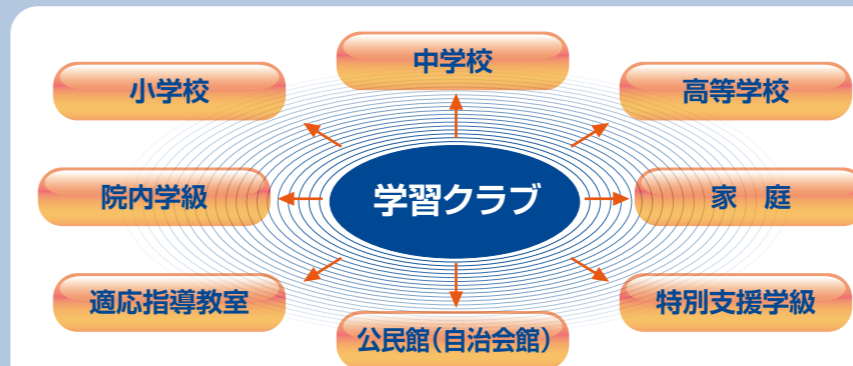
適応指導教室で

適応指導教室では、学校、学年の異なる児童生徒が登校しているため、全員一緒に学習することが難しく、解らない問題は説明を待っている状態が多く、効率よく学習を進めることができませんでした。「学習クラブ」を活用すると、「自分でプリントを出す」「出したプリントは必ずやる」というやり方を楽しみ、学習に向かう姿勢が身に付いてきました。

特別支援学校で

特別支援学校の場合、既存のプリントでは児童生徒の実態に合わず、教諭手作りのプリントを作成することがほとんどですが、作成にはとても時間がかかります。学習クラブでは、系統的に種類豊富なプリントがそろっているため、一人ひとりに応じたプリントができ、児童生徒も確実にステップアップしながら、意欲的に学習に取り組むことができます。

地域の教育力の向上について



小学校、中学校、高等学校をはじめ、特別支援学校、適応指導教室、院内学級、公民館(自治会館)、家庭など、子どもたちの学習活動の場は1つの場面にとどまりません。こうした様々な場面で一貫して学習クラブをご活用いただくことで、それぞれの場面が繋がりをもち、(学びの連続)、地域全体を通して子どもたちをサポートすることが可能です。